

ウェブサイトの更新に関してこのような意見が出されました。(詳しくはホームページをご覧ください)

- 今後のことを考えると12年ぶりに更新することよりも、その後どれだけ細かく更新してゆけるかというシステム構築が必要である。例えば、釧路湿原の景色のドローン映像がダウンロードできると良い。
- データは戸籍がはっきりしていることが必要である。誰が、いつ、どのように取ったデータであるかがはっきりと分かることが必要。
- 今後は、データセンターの運営目的を決める必要がある。様々な釧路湿原で行われている自然再生事業により得られた成果を、一つの場所に入れられる仕組みができれば良い。
- 管理責任者を誰が担うのかという点が要の部分になる。また、対象をどうするのかということ。具体的なデータはどこで、誰が、どのように決めたのか、はっきりわかるように載せる。また、例えば、湿原にいる希少種のトンボの写真を入手、ダウンロードできるようなものが良い。
- このデータは、数、種類等共にとっても多いため、少人数で精査するのは無理である。各委員会に振り分けるべきである。
- データセンターに対するニーズをはっきりさせることが必要と感じる。誰のために作っているのか、誰がこれを使うのかをはっきりさせた上で、それに応じた中身を考えるということ。また、更新体制を最初からきちんと設計すること。再生普及小委員会は、湿原の情報を様々な人に広く知ってもらい、提供する、揃える、持っておくという事が一番重要な目的である。それに応じたコンテンツを考える必要がある。

- 誰のために作るかをはっきりさせる必要がある。子どもたち向けであれば、わかりやすいという事が最も重要である。
- データセンターに与えられた役割を考える必要がある。釧路湿原に関するウェブサイトは大きく分けて4つあり、各小委員会のページもある。それぞれのウェブサイト毎に役割をきちんと整理しておく必要がある。どのようなデータセンターを目指していくのかを考える必要がある。
- 釧路湿原の自然再生は税金を使って行われた事業であり、皆さんに還元すべきで、誰でも自由に使えるものでなくてはならない。
- 時代に合わせた構築にしてはどうか。例えば「こんな情報が欲しいよ」という小学生のリクエストに対して、「ここにあるよ」と答えてあげられる仕組み、交流の場がデータセンターの一角にあると良い。

委員

その他

完成した釧路湿原自然再生ガイドブックについての報告及び今後のイベント予定の説明がなされた。

- 釧路湿原自然再生ガイドブックについて
- 第20回フィールドワークショップ「ケネチャラシベツ川さらに奥へ!!!」の開催について
- 自然再生を考える調査体験会「森づくりと生き物しらべ」の開催について

## 第29回 再生普及小委員会 出席者名簿 (敬称略、五十音順)

### 個人[5名]

- 新庄 久志 [釧路国際ウェットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター)]
- 高嶋 八千代
- 高橋 忠一
- 竹中 康進
- 照井 滋晴 [特定非営利活動法人環境把握推進ネットワーク-PEG]

### 団体[6団体]

- 釧路国際ウェットランドセンター [事務局長/菊地 義勝]
- 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [芳賀 孝朋]
- 公益財団法人北海道環境財団 [事務局次長/久保田 学]
- こどもエコクラブしろ [近藤 一燈美]
- 特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所 [後藤 達彦]
- 特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ [百瀬 ゆりあ]

### 資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。  
<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend000003ppq.html>

釧路湿原自然再生協議会運営事務局  
[TEL]0154-23-1353 [FAX]0154-24-6839

### 関係行政機関[5機関]

- 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課長/石澤 肇]
- 環境省 釧路自然環境事務所 [所長/安田 直人]
- 林野庁 北海道森林管理局 [釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長/志村 賢二]
- 北海道 釧路総合振興局 [保健環境部環境生活課 自然環境係長/高橋 克巳]
- 釧路市 [環境保全課 課長補佐/元岡 直子]

### オブザーバー[1機関]

- 釧路商工会議所 [斎藤 大]

### ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAXにて事務局まで御連絡下さい。

# 釧路湿原 自然再生 協議会

# 再生普及小委員会 ニュースレター

編集・発行：釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

REGENERATION  
SPREAD  
SUB COMMITTEE  
NEWS LETTER

Vol. 30

発行日：平成30年2月14日

## 平成29年12月15日(金)「第30回 再生普及小委員会」が 釧路地方合同庁舎5階第1会議室で開催されました。

### 開催概要

「第30回再生普及小委員会」が平成29年12月15日(金)釧路地方合同庁舎5階第1会議室で開催されました。小委員会には個人5名、団体6団体、オブザーバー1機関、関係行政機関5機関が出席しました。今回は、再生普及小委員会の活動報告及びウェブサイト等による情報発信についての意見交換が行われました。



「ヨシ・スゲ湿原に潜む“ヤチマナコ”や“伏流水”をさがそう」  
(第19回フィールドワークショップ)2017年7月14日

## Discussion about Regeneration of Kushiro Marsh

このようなことが話し合われました。

### 再生普及小委員会の活動報告

事務局より再生普及小委員会の活動について報告が行われ、再生普及行動計画オフィス取組みについて、環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況についての報告がなされた。

## 1 再生普及行動計画オフィス取組みについて

### ① ワーキンググループ等の開催

- 第5回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ  
開催日：平成29年8月3日(木) 参加者：15名  
議 題：取組み報告と今後の取組予定
- 第6回 再生普及推進のための連携チーム会合  
開催日：平成29年12月1日(金) 参加者：13名  
議 題：環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況について  
ウェブサイト等による情報発信について

### ② ワンダグリンド・プロジェクトの推進

- ワンダグリンド・プロジェクト2016活動報告書の作成・配布
- ワンダグリンド・プロジェクト2017活動支援  
・イベント、パネル展での活動紹介  
・メールニュースでの活動情報発信  
・活動の場の提供、イベント等での支援

### 「ワンダグリンド・プロジェクト2017」 応募状況

- ・総数：60団体(個人) 81取組み(協議会含む)
- ・広報支援施設：9施設



ワンダグリンド・プロジェクト2017 取組みの一例

REGENERATION SPREAD  
SUB COMMITTEE  
NEWS LETTER



- フィールドワークショップの実施  
第19回フィールドワークショップ  
「ヨシ・スゲ湿原に潜む“ヤチマナコ”や“伏流水”をさがそう!」  
開催日：平成29年7月14日(金)  
参加者：19名 案内人：新庄久志氏

こんな感想がありました

新鮮でいろんな  
驚きや発見があった!

ヤチマナコに入ったり  
スゲの中を歩いたり、  
とてもワクワク楽しかった!

貴重な体験に  
なった!

とにかく楽しい!



「ヨシ・スゲ湿原に潜む“ヤチマナコ”や“伏流水”をさがそう!」  
(第19回フィールドワークショップ)  
2017年7月14日



釧路市生涯学習フェスティバルまなトピア2017  
2017年11月11日～12日

3 情報発信・普及活動の拡充

- メールニュースの配信、施設等での掲示
- 市町村広報誌、新聞等メディアへの情報提供、記事掲載
- イベントの出展、パネル展の開催
- ・くしろエコ・フェア2017  
開催日：平成29年6月24日(土)
- ・釧路市生涯学習フェスティバルまなトピア2017  
平成29年11月11日(土)～11月12日(日)開催

4 自然再生事業の現地見学会及び  
自然再生活動への参加機会づくり

- 現地見学会、ワンダグリンド・プロジェクトによる  
市民参加の取組みの実施

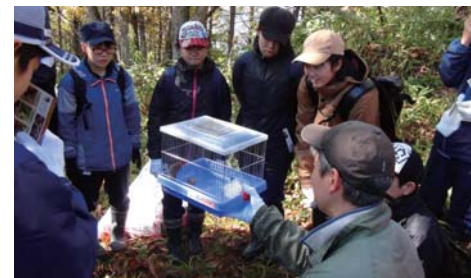
5 学校支援ワーキンググループの取組み課題の実践

- 取組み課題1「湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進」



土砂流入対策事業地「久著呂川」を活用した  
実践コーディネート(標茶町立標茶小学校5年生)  
2017年9月5日

- 取組み課題2「自然再生の学校教育への活用促進」



達古武地区自然再生事業地を活用した実践コーディネート  
(釧路町立昆布森中学校)  
2017年10月30日

- 取組み課題3「学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及」

- ・教員研修講座の企画
- ・学校における実践の支援
- ・釧路湿原流域環境を題材とした実践等の発表の場作り、  
学びのプロセス支援
- ・ワーキンググループの取組みの広報



釧路教育研究センター共催教員研修講座 2017年8月30日

2 環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況について

- 自然再生協議会各小委員会及びワンダグリンド・プロジェクト登録団体による  
市民参加イベントの開催数は13(6月～9月)
- イベント実施後の参加者へのアンケート結果は、「とても満足」、「やや満足」合わせて約93%

ウェブサイト等による情報発信について

事務局よりウェブサイト等による情報発信についての説明がなされた。

1 ウェブサイト等による情報発信について

釧路湿原及び自然再生に関する状況を提供するウェブサイト「湿原データセンター」(平成17年度より運営)を「電子行政オープンデータ戦略」(平成24年7月策定)に基づき再構築を行う予定。

●湿原データセンターの更新スケジュール

- 平成28年度……更新内容の内部検討
- 平成29年11月……有識者等ヒアリング(事前調査)
- 平成30年1月……新「湿原データセンター(仮称)」試作版(案)作成
- 平成30年2月……有識者等ヒアリング(試作版ヒアリング)
- 平成30年3月……試作版 作成
- 平成30年度以降…環境省ウェブサーバへの移行について調整

●アンケートの実施

釧路湿原自然再生協議会構成員へのウェブサイトに関するアンケートを実施予定。



2 湿原データセンター更新の概要

現状

- ・二次利用可能な元データが掲載されていない
- ・データの利用に関するルールが不明確
- オープンデータの提供媒体としての機能が  
備わっていない

更新

- ・オープンデータの提供媒体として再構築
- ・サイトの利便性向上に関する改善の実施

目標

- ・環境教育、普及啓発、観光等の幅広い分野で活用
- ・市民からの情報収集も可能な双方向型のウェブサイト

基本方針

- 1 利用者が見やすく使いやすい。
- 2 今後のウェブサイト更新も考慮した「柔軟性」、「汎用性」、および「拡張性」がある。
- 3 テキストや画像、リンク等の追加・変更・修正・削除が容易に行える。
- 4 セキュリティを遵守する。
- 5 スマートフォン用のインターフェースを作成する。
- 6 オープンデータとして社会で効果的に利用できる環境(オープンデータ流通環境)の整備をする